

宮城県教育庁の全国募集に対する検討状況について

① 宮城県高等学校入学者選抜審議会（入選審）について

- ・7月の入選審で全国募集に関する専門委員会を設置することが承認された。
- ・これまで計2回専門委員会を開催した（9月、10月）
- ・全国募集について特に反対意見は出ていないが、宮城県として全国募集を導入するメリット、デメリットについて検討していかなければならない。
- ・全国募集の効果を検証するために、モデル校を設置して、その効果について検証していく予定。

《モデル校について》

- ・令和3年2月開催予定の専門委員会でモデル校となる学校について検討する予定。
→志津川高校は有力である。
- ・モデル校開始のスケジュール等は全く決まっていない。
→調査期間やモデル校のスキーム等を考えると、令和4年度開始は困難である。
- ・モデル校は3年～5年の期間で検討している。

《モデル校決定までのプロセス》

- ・第3回専門委員会で協議、検討 → 定例の教育委員会に付議 → 決定（予定）

② 全国募集に対する県教委の基本的な考え方について

- ・全国募集のメリット、デメリットについて検討しているが、宮城県で成功するかどうかは正直やってみないとわからない。
- ・受入体制を整備しても、どの程度入学してくるのかも読めない。
→ただし、魅力的かつ特色ある教育課程がないと、わざわざ県外から入学してこない。
- ・全国募集の実施にあたり、県教委が重要視している項目は主に3つ。
 - ① 魅力ある学校づくり【教育課程、課外学習の充実（例：地域と連携した探究活動等）】
 - ② 受入体制の整備【寮やその他受入体制の整備】
 - ③ 市町村のバックアップ（財政支援）【公営塾、通学支援、コーディネーターなど】
- ・県教委からの財政支援は難しいと考えている。
→鳥根県などは県から市町村へ財政支援を行っているが、宮城県の場合、全県的な取り組みではないため、一部の市町村および高校にのみ支援をすることは現実的ではない。